

図書館は 新しい世界が広がる場所



朝読書など、学校での読書活動が広まり、子どもと本との距離は随分縮まってきました。しかし、おうちの方から「子どもが本を読みません」「どうすれば本好きの子どもになりますか？」という声がなくなることはありません。そこで、今月は子どもへの図書館サービスや、特に子どもへの読書支援について研究をされている岩崎れい先生に図書館の魅力や、本好きな子どもになるためにおうちの方ができることなどについてお話を伺いました。

初めてのワクワク

「ピンクのお城がきれいだった」小学1年生の時、図工展で見たお城の絵がすごく素敵で、その時、何気なく書いたコメントです。それを見た両親はすぐにそのお城に連れて行ってくれました。そのお城の正体は当時住んでいた中野区の児童館に併設する図書室だったと思います。今思うとそんなお城が日本にあるわけではないのですが……。とても感動しました。これが私と図書館の初めての出会いです。

その後、文京区に引っ越しますが、文京区には「千石図書館」という児童書が充実した施設があったり、一人で行ける距離にも図書館があったりして、よく通



岩崎 れい (いわさき れい) 先生
1996年東京大学大学院教育学研究科生涯教育計画コース(図書館情報学)博士課程単位取得満期退学。京都ノートルダム女子大学、同大学大学院准教授、国立国会図書館非常勤調査員を経て、現在は京都ノートルダム女子大学人間文化学部人間文化学科、人間文化研究科人間文化専攻教授。第3次京都市子ども読書活動推進計画策定委員会委員長。



うようになりました。どんな本を借りたか、というの覚えています。ドキドキワクワクするところ（＝図書館）に行きたかったということは覚えています。通ううちに自然と読書の楽しさも覚えるようになりまして。図書館＝ドキドキワクワクするところという思いは今でも変わりません。

いくつになっても読み聞かせを

ところで、みなさんはお子さんに読み聞かせをしていますか？ 多くの方がお子さんが小学生になり、一人で文字が読めるようになると読み聞かせをやめてしまいます。実はここで本が苦手になってしまふ子が出てきます。文字が読めるといふのと、本を読むといふのは違う行為なのです。個人差はありますが、低学年の頃は文字を読むことに一生懸命になりがちで、書かれている内容が頭に入ってきません。内容のわからない本は面白くないのは当然です。また、逆にひらがなばかりで読みやすいものは、内容が本人の発達段階に合っておらずつまらない。お子さんが読みたい本を、時間があるときに数ページでもいいので、読んであげてほしいと思います。

ちなみにわが家では、入眠儀式として5年生の息子に読み聞かせをしています。小さな頃からしているので、1日1ページでも読まないとなんだか落ち着きません。夫が早く帰ってきたときは、家族3人で寝る前に一緒に本を読み、みんなで大笑いすることもあります。本が、読み聞かせが、家族のいいコミュニケーションツールになっていきます。そろそろ息子も思春期に入ってくると思いますが、本を通して共通の話題を持つことで、会話を失わずにいられそうな気がします。

図書館に出かけよう

さて、そこでぜひ、利用してもらいたいのが図書館です。先程、お子さんの年齢や関心に合った本を選んであげてください、と言いましたが、児童書には詳しくないので、子どもに本を選んであげるのは難しい、という方もおられるでしょう。もちろん、おうちの方に好きな本があればそれを読んであげてもいいですし、お子さん自身が読む本としても勧めてあげてください。

図書館には何十万冊という本があり、子ども向けだけでも何万冊もあります。親子で書架を回ってみてください。きっと

とそれぞれに目に留まる本があると思います。何でもいいのです。それを借りて一人で読むのもいいですし、一緒に読み聞かせを楽しんでもいい。面白くなければ、読むのをやめてもいい。いくらでもお試しできるのが図書館のいいところです。自分にとってはつまらなかった、というのも経験です。次は違う世界に目が向き、楽しめる本が見つかるでしょう。

おうちの方には、お子さんが本と出会うきっかけを作ってあげてほしいのです。読み聞かせもその一つですし、本に興味があるお子さんならなおのこと、図書館でより多くの本と出会ってほしいと思います。その際、司書の力を利用してみるのも一つの方法です。「こんな本が読みたい」「以前こんな本を読んだけれども、オススメを教えてください」などと尋ねてみてください。自分には気づかなかつた世界を教えてください。

本は、自分が経験したことのない世界を擬似体験させてくれます。そこで育まれた豊かな想像力は逆境を乗り越える強い力にも、他人の思いに寄り添える優しい力にもなります。世界を大きく広げてください。図書館はその大きな世界への入り口なのです。